

村山重忠教授略年譜および主要著作目録

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

社会労働研究

(巻 / Volume)

15

(号 / Number)

4

(開始ページ / Start Page)

145

(終了ページ / End Page)

147

(発行年 / Year)

1969-03-10

村山重忠教授略年譜

明治三十一年二月二七日 東京都港区麻布材木町に舟木練太郎

の五男として生まる。

明治三十四年 四歳の時、村山焯てらすの養子となる。

明治三十七年 四月 千代田区麴町尋常高等小学校入学。四〇年

四月青山青山南小学校へ転校、続いて四一年

四月青山師範附属小学校へ転校。

明治四十四年 三月 青山師範学校附属小学校卒業。

明治四十四年 四月 私立青山学院中等部入学、翌年四月私立麻

布中学校へ転校。

大正五年 三月 私立麻布中学校卒業。

大正七年 九月 第六高等学校一部丙類入学。

大正九年 八月 胸膜炎のため休学し、翌年三月まで療養生

活を続ける。

大正一二年 三月 同校文科乙類卒業。

大正一二年 四月 東京帝国大学経済学部経済学科入学。この

年、丹羽喜世と結婚し、自活の道に入る

(帝国地方行政学会編集部長正係など)

大正一四年 三月 同校同学部卒業。

大正一四年 四月 以降一年間、東京金物商同業組合書記とな

り、傍ら東京帝国大学経済学部研究室にお

大正一五年 七月

いて産業労働事情の研究に従事する。財団法人協調会労働課に奉職。事務取扱嘱託。産業及び労働問題の調査研究に従事する。

昭和一一年 三月

同会参事調査部勤務を命じられる。

昭和一五年 五月

同会依願退職。

昭和一五年 六月

財団法人東亜研究所調査員。資料課長を命じられる。

昭和一七年 三月

東亜研究所の命により図書收受のため、中国を訪問。その際、中国、朝鮮を旅行する。

昭和一八年 四月

以降、二〇年六月まで陸軍経理学校嘱託を兼務する。

昭和二〇年 六月

東亜研究所依願退職。

昭和二〇年 七月

財団法人協調会に調査部員として奉職、調査部長を命じられる。

昭和二〇年 八月

財団法人協調会解散のため退職。引続き財団法人中央労働学園に調査部次長兼第一課

昭和二一年 四月

長事務取扱として勤務する。早稲田大学商学部講師となり、以後現在にいたるまで協同組合論或は社会政策の講義を担当する。

昭和二一年 五月

厚生省労政局事務嘱託を命ぜられ、昭和二二年七月まで勤務する。

- 昭和二二年一二月 埼玉県地方労働委員会公益委員を委嘱される。昭和二二年二月、委員改選に際し退職する。
- 昭和二二年三月 中央労働学園評議員となる。
- 昭和二二年四月 中央労働学園に専門学校併設され、同校教授となり、労資関係論を講義する。
- 研究「終戦後の労働争議の実態調査」について、文部省科学研究費を受ける。
- 昭和二三年四月 立教大学社会科学講師となり、昭和三三年三月まで協同組合論の講義を担当する。
- 昭和二三年六月 中央学園調査部閉鎖後、専門学校の専任教授となる。
- 昭和二四年四月 中央労働学園に大学が設置され専任教授となり、労資関係論の講義を担当する。
- 第一学部長、第二学部長を兼務する。
- 昭和二五年二月 文部省職業教育及職業指導審議会委員を命ぜられる。
- 昭和二五年四月 明治学院大学経済学部講師となり、以後昭和二九年三月まで労働問題、労働組合論の講義を担当する。
- 成蹊大学経済学部講師となり、以後昭和三二年三月まで、協同組合論の講義を担当する。
- 昭和二五年六月 社会政策学会設立に際し、発起人の一人となる。
- 昭和二五年一二月 中央労働学園において、大学学長事務取扱及び常務理事を委嘱される。
- 昭和二六年一月 愛知大学法経学部講師となり二九年三月まで社会政策の講義を担当する。
- 昭和二六年八月 中央労働学園大学と法政大学との合併により社会学部新設され、専任教授となり、初代学部長を勤める。爾来現在にいたるまで協同組合論、社会問題総論などの講義を担当する。
- 昭和二七年六月 再び社会学部長となる。
- 昭和三一年七月 社会学部長を昭和三三年三月まで勤める。
- 昭和三一年三月 協同組合研究会設立発起人の一人となる。
- 昭和三二年七月 労働運動史研究会設立発起人の一人となり、設立後評議員。
- 昭和三六年一〇月 法政大学附属図書館長となり、昭和三九年八月まで勤める。
- 昭和三七年一二月 法政大学評議員を委嘱され、昭和三九年七月まで勤める。
- 昭和三九年四月 法政大学大学院社会科学研究所に社会学専攻が新設され、専任教授となり、社会問題基礎理論の講座を担当する。

昭和四〇年一月 法政大学生協同組合の理事長となり、昭和四一年一月まで勤める。

昭和四三年九月 社団法人生活問題研究所理事となる。

村山重忠教授主要著作目録

西洋通史 H.G. Wells 秋庭俊彦訳 下訳 大正一二
労働争議日誌 社会政策時報

大正一五年七月一日〜昭和七年四月一日 協調会

消費組合と婦人 解放 大一五・一〇・一 解放社

消費組合の中立性(上) 産業組合 昭二・三・一

産業組合中央会

消費組合の中立性(下) 産業組合 昭二・四・一

「消費組合と労働運動」訳 Karl Kautsky

昭三・四・三 叢文閣

野田争議に対する消費組合の活動 協同組合研究

昭三・六・一 協同組合運動社

ベルギーに於ける協同組合運動 協同組合運動

昭三・八・一 協同組合運動社

「支那に於ける農民運動の最新段階」(支那に於ける最近の

農民運動と農業問題)所収) 訳 ベ・ブライエル著

昭四・七・二九 産業労働調査所編訳・叢文閣

農村と消費組合 協同組合 昭四・九・一 協同組合運動社

本邦工業労働者の消費組合運動 協調会労働課

日本労働争議史概観 昭五・五・三〇 文明協会ライブラリー

本邦市営事業に於ける労働争議の沿革 都市問題

昭五・六・一 東京市政調査会

昭和五年に於ける労働者消費組合運動概観 社会政策時報

昭六・二・一 協調会

我国に於ける労働争議の過去と現在 昭六・三・一五 日東社

現下の恐慌と労働争議 社会政策時報 昭六・一二・一

協調会

昭和六年に於ける争働者消費組合運動 社会政策時報

昭七・二・一 協調会

昭和六年に於ける労働争議の概観 社会政策時報

昭七・二・一 協調会

現下の学生消費組合運動の趨勢に就て(上) 消費組合

昭七・五・一 協同組合研究所

現下の学生消費組合運動の趨勢に就て(下) 消費組合

昭七・七・一 協同組合研究所

国際協同組合デーに当り 協同組合運動 昭八・七・一

大阪開拓社

階級的消費組合運動(協調会「昭和八年版労働年鑑」所収)

昭八・一二・二三 協調会

消費組合運動(協調会「昭和九年版労働年鑑」所収)

昭九・一二・二四 協調会